

## 令和5年度 第3回 聴覚障害者センター指定管理者運営委員会協議の概要

- 1 日 時：令和5年9月16日（土）  
開会：13時30分 閉会：14時35分
- 2 場 所：岡山県聴覚障害者センター研修室
- 3 出席委員：岡山県聴覚障害者福祉協会 中西 厚美、井下 智貴  
岡山県難聴者協会 森 俊己、竹上 敦典  
欠席委員：岡山県聴覚障害者福祉協会 東 久示、中務 雅裕  
岡山県難聴者協会 谷口 進
- 4 会議に出席した者  
岡山県聴覚障害者センター 所長 西條 保幸
- 5 情報保障：岡山県聴覚障害者センター職員1名、岡山県手話通訳問題研究会1名  
岡山県要約筆記団体連絡会3名
- 6 報告事項
  - (1) 令和5年7月・8月の月例報告
  - (2) 令和5年8月までの各種事業の実施状況と計画
  - (3) のびのびこどもひろばの実施報告
  - (4) TRS 利用登録会の実施報告
  - (5) 災害救援専門ボランティア研修会の実施について
- 7 協議事項
  - (1) 手話通訳者の養成カリキュラム及び学習指導要領の変更について
- 8 その他
  - (1) 次回運営委員会の会議日程について
- 9 協議の概要（○は委員の発言、□はセンターの発言）
  - ① 月例報告書について
    - 各月の利用者数は前年同月と比較しているが、コロナ前の利用者数との比較はしているのか。
    - 平成17年の開館以来各月の利用者数の統計をとっているため比較はできる。コロナ前は概ね年間12,000人の利用者があったが、コロナで激減し、現在は増加

に転じている。今年度は10,000人を超えると予想するが、コロナ前の水準まであと一息だと考えている。

② 各種事業の実施状況と実施計画について

- 手話入り映像ライブラリーの貸出数であるが、目標値は何本か。
- 目標値は令和3年度に策定した中期目標で年間200本と決めている。
- ライブラリにはDVDとVHSがあるが実際に貸し出すのはDVDだけだと思う。そうすると、年間200本の目標というのは高すぎる数値ではないか。現状を見て目標値を変更する考えはないのか。
- 令和3年に策定した中期目標は前5年間の平均値を基準として設定しており今後5年間で達成するものである。コロナ前の数値で設定したので現状では少し高いと思われるが、自らが設定した目標値なのでそれに向かって頑張っていきたいと思う。
- 中期目標は5年先の目標値と言うことだが、1年先の短期間の目標値を設定することはできないのか。
- 短期目標の設定は可能であるが、現在は設定する予定はない。
- ライブラリのVHSを借りてみたが映像がきれいではなかった。何か対応できないのか。
- ライブラリには約2,000本のVHSがあるが、作品が古いので毎年500本ぐらいのVHSを処分しており、このペースではVHSは数年でなくなってしまうと予想している。逆にDVDは毎年新作を50本ほど増加しており、カバーする作品の違いはあるが今後はDVDをお借りいただければと思う。
- 関係機関や地域社会との連携で、言語聴覚士会へ職員2名を派遣しているが内容は何か。
- 言語聴覚士会から聴覚障害に関する講演及び総合ディスカッションを行うので手話通訳者と要約筆記者を派遣していただきたいという申し出があり、これに応じたもの。内容に関しては把握していない。
- 生活応援グッズについて、移動式目覚まし時計が4人4件となっており、今後、需要が増えた場合に備えて、増やすことはできないか。
- 生活応援グッズは昨年度までは貸出ゼロの状態が続いていたが、ポツポツと希望者が出てきた。移動式目覚まし時計アラームクロックは現状でも2台備えているが、不足する場合は購入することは可能だ。適切に対応していきたい。
- スマホ教室であるが、参加者に聞いてみると内容が難しかったという感想があった。一朝一夕にスマホが使えるようになる訳ではないので、今後とも継続してやっていただきたい。
- 内容に関しては難しかったと感じる人もその逆の人もいる。各人のレベルに合わせて初級編、中級編などに分けての実施をお願いする。
- 玉野支部でも初心者用スマホ教室をやってみたが、ラクラクホンの使用者もいて、

これでは電話リレーも使えないということになり難しさを感じた。

- 来週実施の災害救援専門ボランティア研修会であるが、聴覚障害者の参加人数は何人なのか。
  - まだ集計していないのでわからない。
  - この研修会は災害対策本部との共催という形式を取っているので、当然、聴障協や県難協からも出席しなければならない。しかし参加者数が少ないのが問題だと感じている。
  - 当事者の参加が少ないのは問題だ。遠隔通訳の訓練もあるので当事者の参加者数を増やす方法を考えていただきたい。
  - 災ボラ研修での遠隔通訳の訓練は、手話通訳者・要約筆記者を対象にしている。しかし当事者に訓練に参加していただくことは可能なので是非参加していただきたい。今後、当事者側が遠隔に慣れるための場を検討しないといけないと思う。
- ③ 手話通訳者の養成カリキュラム及び学習指導要領の変更に関して
- 実践課程が廃止されることで講座に要する時間数が少なくなる。あまった時間を利用して工夫を重ねながら受講生の実力アップにつながる取り組みを実施していただくことを要望する。
  - 検討します。
- ④ その他
- 次回（第4回）運営会議は11月18日（土）13時30分からとする。